

3 R イニシアティブ国際推進費

1 2 0 百万円 (1 0 3 百万円)

廃棄物・リサイクル対策部 企画課

1. 事業の概要

3 R (リデュース、リユース、リサイクル) イニシアティブの推進について、我が国が G 8 議長国となる平成 2 0 年 (2008 年) を目指して、以下の事業の実施により国際的なリーダーシップを発揮する。

・アジア各国の 3 R 推進のための政策対話・計画/ビジョン策定支援協力
アジア各国において 3 R を推進するための計画/ビジョンの策定を支援する。また、シンガポール等と協力して東アジアにおける 3 R 政策対話を実施する。

・ 3 R に関する技術移転の推進

3 R に関する技術・システムの情報をデータベース化し、アジア開発銀行や国連環境計画と連携して情報拠点を構築する。

・アジア資源循環研究推進事業

アジアにおける 3 R ・廃棄物管理の研究者・専門家間での連携を目的とした研究ネットワークを形成する。

・ (新) 3 R 行動計画案策定調査

平成 20 年に日本で開催する G 8 サミットを念頭に 3 R 行動計画案を策定する。

・ (新) 3 R イニシアティブ高級事務レベル会合の開催

3 R イニシアティブに関する具体的な取組について議論するために、3 R イニシアティブ高級事務レベル会合を開催する。

2. 事業計画

	H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1
	事前調査	政策対話	計画策定	3カ国の事業を 2グループに分けて実施	
			東アジア 政策対話		
	データベース作成		データベースの管理・情報拠点の構築		
	研究ネットワークの形成				
			計画案策定	G8サミット	フォローアップ
	高級事務レ ベル会合			高級事務レ ベル会合	

3. 施策の効果

平成20年に日本で開催するG8サミットへ向けての3Rイニシアティブの
更なる推進

政策担当者レベル、研究者レベルでのアジア各国間の連携の強化

3Rに関する国際的な研究の推進による科学的基盤の強化

我が国の先進的な3R技術・システムの国際的な展開

3 R イニシアティブの国際的推進について

課題

- ・ 廃棄物の発生が増大と質の多様化による不適正な処理
- ・ 循環資源の越境移動の活発化による国内外の廃棄物処理・リサイクルシステムへの影響
- ・ 資源価格の高騰

基本的な考え方 (平成18年版循環型社会白書)

国際的な循環型社会を構築するために、

まず各国の国内で循環型社会を構築し、

廃棄物の不法な輸出入を防止する取組を充実・強化し

その上で循環資源の輸出入の円滑化を図る

ことが必要。

我が国は、G8議長国となる2008年を目指して3 R イニシアティブの推進に向けてリーダーシップを発揮

具体的な取組

- ・ アジア各国における3 R 推進計画/ビジョンの策定支援
- ・ 東アジア3 R 政策対話の実施
- ・ 3 R 技術・システムに関する情報拠点の構築
- ・ 3 R に関する研究者・専門家のネットワーク形成
- ・ バーゼル条約を基盤とした、廃棄物の不法な輸出入の防止対策
- ・ 3 R イニシアティブ高級事務レベル会合の開催(2007年)
- ・ 3 R 行動計画案の策定

3 R イニシアティブの国際展開

2004年

6月 G 8 シーアイランドサミット（米国）
小泉首相が3 R イニシアティブを提案し、各国首脳が3 R 行動計画に合意。

2005年

4月 3 R イニシアティブ閣僚会合（東京）
20ヶ国の閣僚・国際機関代表が参加し、3 R の国際的な推進について合意。

3 R イニシア
ティブの開始

7月 G 8 グレンイーグルズサミット（英国） 3 R 閣僚会合の成果を小泉首相より報告。

2006年

3月 3 R 高級事務レベル会合（東京）
20ヶ国の部局長級が参加し、国内外での3 R 推進を議論

7月 G 8 サンクトペテルブルグサミット（ロシア）
3 R イニシアティブを更に推進するために、G 8 各国は資源生産性を考慮した目標を適
宜設定することに合意

10月 アジア 3 R 推進会議（日本）
アジアでの3 R 推進や、生ごみ・電子電気廃棄物の3 R、医療廃棄物対策について議論

2007年

G 8 サミット（ドイツ）

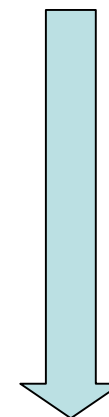
3 R 高級事務レベル会合（日本）

G 8 環境大臣会合（日本）

2008年

G 8 サミット（日本）

3 R の
取組
を推進



3 R の成
果のとり
まとめ

